

資料3-1

令和5年(2023年)10月3日(火)
第3回市民参加推進審議会

第2回 八王子市市民参加推進審議会(第8期) 会議録

会 議 名	第2回 八王子市市民参加推進審議会(第8期)	
日 時	令和5年(2023年)3月29日(水) 18時30分から20時30分	
場 所	生涯学習センター(クリエイトホール)11階 第7学習室	
出席者氏名	委 員	小林勉委員、山本薫子委員、荒木紀行委員、岡崎理香委員、門倉栄委員、行田正三委員、田中祐輔委員、星晶子委員
	説 明 者	—
	事 務 局	渡邊和樹(広聴課長)、宮野努(広聴課主査)、実森将人(広聴課主任)
	そ の 他 市側出席者	古川由美子(総合経営部長)
欠 席 者 氏 名	—	
議 題	1. 諮問事項「団体や企業を通じた市民参加の裾野を拡大させるための方策について」の議論 2. その他・事務連絡	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由	—	
傍 聴 人 の 数	なし	
配 付 資 料 名	資料2-1:第1回八王子市市民参加推進審議会(第8期)会議録 資料2-2:第2回市民参加推進審議会 議論のポイント	
議 事 内 容	次ページ以降のとおり	

【議事内容】

開会

- 小林会長
- ・第2回市民参加推進審議会を開催する。
 - ・本日は半数以上の出席があるため会議は成立する。
 - ・傍聴を希望される方はいるか。
- (事務局確認、傍聴者なし)
- 小林会長
- ・では諮問事項「団体や企業を通じた市民参加の裾野を拡大させるための方策について」の議論に入る。

1. 諮問事項「団体や企業を通じた市民参加の裾野を拡大させるための方策について」の議論

(1) 配布資料を基に議論

- 小林会長
- ・まず、配付資料について事務局から説明いただきたい。
- (事務局から資料2-2を使用して説明)
- 小林会長
- ・事務局の説明について質問等あるか。
- (質問等なし)
- 小林会長
- ・本日は、各委員の経験や自身が所属する団体等での活動状況について共有する場としたい。順に発言願う。
- 岡崎委員
- ・自身が所属する八王子市民活動協議会では、市内で市民活動を行っている市民や団体をサポートするとともに、市民・団体同士を連携し、つなげるという中間支援を行っている。また、市の市民活動支援センターの指定管理についても受託している。市民活動の旗振り役であり、サポート役でもあり、様々な角度から市民活動を支援することで、地域・市・さらにその周辺も含め、地域を幸せにする活動に貢献したいということで活動している会である。協議会の活動により、市民や団体に行政に関わってもらい、行政との共助のまちづくりに貢献できれば、と考えている。市の新たな長期計画である八王子未来デザイン2040の基本理念をみんなで実現するために活動していきたい。
 - ・近年、企業の方と話をする機会が増えているが、その中で、地域の中の社会的存在として地域に参加したい、地域の人たちと一緒に企業目的を達成したいという考えを持ち、社是は地域の人たちと一緒に幸せになるということだ、という企業が増えていると感じる。単に利益を追求するだけではなく、地域の人たちと一緒に幸せになる、という意味での利益を与えられるようにならなければ会社としても利益を得られない、と感じる企業が多いのではないか。近年、市と連携協定を結ぶ企業も増えており、市政に参加したいという企業も増えているのではないか。
 - ・市の審議会にも、もっと企業や団体から参加する委員を増やしても良いのではないか。
 - ・協議会では、様々な団体から、情報発信や持続可能な団体運営に関する相談に応じているほか、団体同士をつなげる交流イベントを実施しており、その中で様々な工夫を行っている。
 - ・コロナ禍の中いかに参加してもらおうか、ということで、情報発信の方法については何度も検討し、紙チラシだけでなく、SNSやYouTubeライブ、オンライン会議等、様々な手法をとった。

- ・参加者が固定しないよう、新たな参加者を増やすために大学や企業へアプローチする等の取り組みも行っている。イベント実施時に大学のボランティアセンターを通じ学生ボランティアを募集したところ、50人位の参加があった例もある。こういった学生の中には、別のイベントへも参加してくれたり、企画段階から参加したいと言ってくれる学生もいる。
- 小林会長
渡邊課長
- ・市との連携協定について、事務局から補足はあるか。
 - ・最近の事例では、明治安田生命保険相互会社と市で、健康増進に関する連携協定を締結した。
 - ・他自治体の例では、生命保険会社との協定により、市から生命保険会社に情報提供した内容を生命保険会社から顧客である市民に案内するという取り組みも行われている。
 - ・協定先の企業において、従業員が業務として市政に関わったことをきっかけに市について知り、そのことをきっかけとして個人としての市民参加につながる可能性があるのではないかと考えている。
 - ・また、八王子市では企業だけでなく様々な大学等とも連携協定を締結している。
- 岡崎委員
- ・明治安田生命保険相互会社では、従業員が居住地等の地域に対し行った募金に会社としての拠出金を上乗せし寄付を行う「私の地元応援募金」という取り組みを実施している。令和3年に、八王子支社から八王子市民活動協議会に対し寄付先についての相談があり、スタートアップの資金などで困っている団体に助成するための資金として協議会へ寄付をいただいた。また、いちようまつりにもボランティアを派遣していると聞いている。
 - ・また、西武信用金庫や多摩信用金庫でも、地域貢献に取り組むための部署を設置し、様々な取り組みが行われている。
 - ・市ではなく社会福祉協議会と連携協定を締結している企業もあると聞いており、企業としても地域に参加したいと考えているのではないかと聞いているのか。
- 荒木委員
- ・企業も社会参加やSDGsに取り組まなければやっていけないというのが世界的な世の中の流れであると思う。しかし、日本では大企業しか取り組むことが出来ておらず、世界から見ると遅れている。
 - ・八王子市内企業のほとんどが中小企業。取り組む企業が増えてくれれば良いと思うし、否定するものではないが、市内の中小企業は市民参加、社会参加、SDGsへの取り組みを行うことができる状況ではないのではないかと聞いているのか。利益相反行為に該当する可能性もあり、企業の市民参加について一定程度の縛りを設けることも必要ではないかと聞いているのか。
 - ・諮問事項について、市民参加を見込める大企業を対象とするのか、参加は困難な状況であることを理解したうえで、中小企業にも何らかの形で参加して欲しいと考えるのか、整理が必要ではないかと聞いているのか。
 - ・4月1日号の八王子市広報に八王子未来デザイン2040についての市長の言葉が掲載されており、その中に「地域自治」と「共創」という言葉があった。「共創」は市民参加条例で定める6つの手法の範疇には当てはまらないのではないかと聞いているのか。
- 小林会長
- ・中小企業に対し、余力の部分で市民参加を求めるのは難しいところもあるということが事実である一方で、そこを取り残したままで良いのか、というジレンマがある。

- 今回の諮問事項において底辺に流れる大きなテーマとなるものだと認識している。
- 山本副会長
- ・市民参加の6手法については前期の審議会でも議論した。参加者は市民参加であると認識していないが、市のイベントであったり、ボランティアであったり、市政に参加できる機会は増えてきている。前期審議会では、従来の市民参加という枠の中で市が捉えるものと、参加者が考えている意識とが乖離してきており、実態に即した形に整理していければ、という意見があった。今期の諮問事項とは異なるが、本審議会の課題として認識している。
- 小林会長
- ・本日の配付資料にある「市民参加」「協働」「自治」のイメージ図についても、審議会での議論を経て新たなものを描ければ良いと考えている。
- 荒木委員
- ・町会としての視点では、「市民参加」「協働」「自治」という分けは無く、全てイコールであると捉えている。
- 星委員
- ・以前勤務していた会社で、あきる野市で開催されていた「秋川溪谷自然人レース」の協賛活動を行っていた。これは、秋川の川の中を上流に向かって走っていくもので、自然を楽しんでもらい、地域の地域振興にもつなげるもの。多摩地域や近隣県だけでなく、静岡、茨木、愛知、群馬等、遠方からの参加者もあった。
 - ・会社からは従業員が選手や運営の手伝いで参加していた。会社としては、地元出身者の従業員も多く、社会貢献や従業員の健康推進という目的から参加していたのだと思う。会社から一定数の人数を出す必要があったのだと思われ、従業員に対し参加への働きかけがあり、社員食堂へポスターが掲示されたほか、社員同士が誘いあって参加することもあった。
 - ・従業員同士での誘い合いもあり、自分だけでは行けないところに行ける、面白そうだったことから自身も2回参加した。地元の方が用意したドラム缶風呂や豚汁の提供もあった。
 - ・どのようなことでも、興味を持つ人がいる一方で、興味を持たない人、仕事と休日を分けて考えたいという人も必ずいる。考え方は人によって違うので、裾野を広げるのは大変だと思う。
- 小林会長
- ・勤務している人だけでなく、それ以外の人も誘引し一つの共有体験をしていくもの。市民参加と共通で、フォーマルな市民参加では無いが、コミットメントするということをつくっていくもの。
 - ・似た事例として、八王子市で高校生が地域課題についての研究発表を行ったと聞いたが、どのようなものか事務局から説明を。
- 渡邊課長
- ・市内の都立高校5校で「総合的な探究の時間」に地域課題解決に向けて学習に取り組んだ高校生が、その学習成果を発表する会があった。
 - ・グループごとにテーマは様々であるが、生徒と実際に話をしたところ、「初めは授業でしようがなく参加していたが、段々楽しくなってきた」ということを複数の生徒が言っていた。そのような生徒に対し、市が実施する地域についてのワークショップ等があれば参加したいと思うか、と聞いたところ、「今回の取り組みで楽しくなり、真剣に考えるようになったため参加したいと思うようになった」と言っていた。これらは市民参加につながるものであり、無関心層を関心層に呼び込むことができるのではないかと思った。
- 行田委員
- ・大学に勤務しており、学生と接する機会が多いため今の話はよく分かる。学生たちは、自分たちから積極的に何かをやりに行くという形ではなく、きっかけを与える

ことで、こちらが求めている以上に大きなことをやってくれる。どうやれば良いのか、という作法が分からないため一歩踏み出せないが、きっかけを与え、やり方を教えてあげればできる学生は多い。学生を見ていると、きっかけを与えることで参加してくれる人はたくさんいるのではないかと思う。

- ・コロナの影響もあり、友達ができず孤立する学生もいる。そのような学生も、何かやりたいと思っていて、何かで集まれるのであれば次の展開に持っていけるということもあり、そのようなきっかけがあれば良いと思う。
- ・コロナの影響により、学生に限らず接点を欲している人は多いと思う。
- ・高校で探求学習が必修になる。学習を通じた経験・思考を持った生徒が増えてくれば、大学での活動も活発になると思う。これからは、それをどのように市民活動として捉えていってあげるかがポイントになる。
- ・先ほど話のあった高校生の発表会は、自身が所属する町会の地域内にある都立八王子北高校が参加していたため聞きに行った。今後は、生徒が持っている地域への思いについて、町会と生徒で意見交換をしたいと考えており、高校と話をしている。
- ・このことについて考えてみよう、と周りが背中を押すことは必要だが、調べてみると楽しい、また、それを聞いてもらって楽しい、という経験は学生・生徒をやる気にさせていく。
- ・学生たちは、自分が行っていることが市などの公的なものにつながっているという認識が希薄。若い人たちは自分が行っていることに自信を持っておらず、市が求めているもの、市に出すものはもっとちゃんとしたものでなければいけないと考えている。そうではないことを伝える歩み寄り、アピールが必要だと思う。
- ・学生だけでなく、市民にとっても、市に対し提言することや、計画に対し意見を提出すること、ワークショップに参加し意見を述べるといったことをするためには、しっかりと準備して調べたうえでなければ行いうことができないという意識がある。参加しながら学んでいき、さらに理解を深めていけばいいのだと思うが、そのようには捉えられていない。
- ・学生は、市に対しこんなことを言っているのだろうか、とされていて自信がない。そんなことはなく、ちゃんと聞いてもらえるものだということを伝えていくことが必要。
- ・自身が指導する学生が行ったグループ学習の成果物を、グループ学習の中でヒアリングに協力してくれた自治体に送付すると、コメントを返してくれる自治体が多い。大学生が作ったものであり、政策に反映されるというものでは無いが、実際に行政の現場で業務にあたっている人からコメントが返ってくるだけで学生に与える影響は大きいと思う。声がちゃんと届いている、ということが分かるだけでも違うと思う。
- ・大学コンソーシアム八王子が実施する学生発表会には、提案内容に関連する部署の市職員が発表を聞きに来ている。学生の提案が市政に反映された事例もあり、八王子市は学生の提案を聞き取り組みが行われていると感じる。
- ・高校のカリキュラムが変わることが市民参加へ与える影響は大きいと思う。しかし、高校側は生徒の取り組みを地域や市につなげる方法が分からない。つなげていくための市側のコーディネーターが必要だと思う。業務を抱える中で庁内調整を行うことの負担感もあると思うが、入り口の対応は重要。他自治体の話だが、学生から政

策提言させてほしいという話を断られたこともある。専門の人員を配置することも必要ではないかと思う。

古川部長

- ・先ほど話のあった市民参加の6手法については、制度開始から成熟してきた部分もある。そもそも、市がやっているものだけが市政なのか、地域でやっている公共もあるのではないかと、ということについても思うところはある。そういった点についても向き合わなければいけない時期だと思っている。
- ・コーディネーターの件については、コーディネートする職員のスキル等の課題があり、他の自治体でも同じような悩みを抱えていると思う。定年延長という話もある中で、市の人材をどのように活用していくか、また、地域や他の団体の方も含めてどのように取り組んでいくのか、ということも考えていかないと感じている。
- ・行政からのフィードバックの件は、何かしらの仕組みを考えていく必要があると考えている。

小林会長
門倉委員

- ・門倉委員は今回から参加。自己紹介を含め発言を。
- ・八王子出身、在住であり、勉強になるいい機会をいただいたと思い参加した。
- ・興味がある取り組み等もあり、今後、何か情報を伝えていけたらと思っている。

小林会長
行田委員

- ・各委員、本日の感想も含め発言を。
- ・学生の立場から見ると、市政に参加することはハードルが高く、また、何かしら市政に関わっていても、本人は関わっていないという話があったが、その通りだと思う。実際に、選挙のアルバイトを募集した際、希望する学生は何人もいる。それも市政への参加なのかな、と思う。自分では単にアルバイトをやっているつもりだが、それが何かの役に立つということはたくさんあると思う。何かのきっかけ、接点があると、いい方向になるのではないかと思う。

田中委員

- ・学生ボランティアには、学生が自ら参加するものと、授業の一環で行うもの（サービスマーケティング）の2種類がある。授業の中で行うものについては、学生は市政・地域への参加だという意識を持っていないが、そのような意識を持たせるということも学校側の課題である。
- ・先ほど選挙の話があったが、自身の所属する大学では市議会議員選挙のアルバイトを募集した際に200人以上の応募があった。そういったものに興味を持っている学生は多いと感じる。そういったことを踏まえ、いかに若い世代に広げていくかというのが課題。
- ・また、探求学習をどのように生かしていくか、ということが市政参加の裾野を広げるためのポイントになるのではないかと思う。

岡崎委員

- ・きっかけが大事だと思う。学生、市民、企業においてもどうしたら参加の入り口に入ってくれるか、市民参加の場づくりが大事だと思う。
- ・八王子未来デザイン2040で掲げる「地域自治」と「共創」に共感している。かつての行政主導で市民が「やらされている」というものから、行政と市民との協働になり、これからはさらに様々なセクターが集まって新たな価値をつくる「共創」になるイメージだと思う。行政主導ではなく、行政はサポート役となるような形の市民自治、住民自治につながるきっかけづくりについて話し合っていきたい。

星委員

- ・自分がやっていることが行政につながっていることが分かりづらいのではないかと。
- ・学生達が授業で取り組んだことを、卒業してからも出来る方法が見えると良いと思

う。

荒木委員

- ・ 2040年になれば人口減少・高齢化が進み、行政だけでは成り立たなくなる。地域で考え自ら行うという地域自治がなければ進まないという前提がある。
- ・ 昨年、降雪時に水道管が凍結し、地域住民が業者に対応を依頼した際に高額を請求された事例があった。そこで、連合町会では、各町会の地域内にライフラインに関わる業者がいるかを調べ、何かの際に協力してくれる業者に登録してもらい、登録業者の一覧表を作成し住民に配布する計画がある。これも企業の地域参加と言えるものであり、このようなものから行政への参加につながるということもあるのではないかと考えている。

小林会長

- ・ エピソードベースで話があった内容を積み重ね、共通項を見出していきたい。
- ・ 今回でいえば、「エントリーポイント」、きっかけの場をどう作っていくかということ、そして、「オーナーシップ」、当事者が自分の事として捉えていないが、大きく見えることが実は身近なことで、それが大きな市民参加に繋がっていくものだと意識してもらうためにどうすれば良いか、という2点が見えてきた。

山本副会長

- ・ 地域の事業者と住民をつなぐことは、持続的な地域の発展、経済的な点も含めた地域コミュニティの維持という点からみて、また、当事者として事業者が地域に関わるという点からも、良い地域づくりにつながるもの。
- ・ 秋川渓谷自然人レースの事例からは、楽しみながら参加しようという意欲を持てるということが大事であると感じた。
- ・ 前期の審議会では、対象者を参加しやすい状況にある人と、そうではない人とに分類分けして議論した。今回も、企業や団体の中でも顧客自体が地域内に住んでいるかどうか、余裕があるかどうか、といったことによって状況は異なるので、企業・団体でひとくくりにするのではなく、ある程度協力してくれそうなところ、期待できるところといった点で分けて考えることが出来るのではないか。
- ・ 当事者であるという意識を企業や団体に持ってもらうことが地域づくりにつながっていくと思う。

小林会長

- ・ それでは終了する。

2. その他・事務連絡

小林会長

- ・ 最後に次第2「その他・事務連絡」について、事務局より説明を願う。

事務局

- ・ 次回の開催は、6月から7月頃、今回と同じ時間、会場での開催を予定している。具体的な日程については、今後各委員にメールにて調整・お知らせする。

小林会長

- ・ その他、皆様から何かあるか。特になければ、以上で、本審議会は散会する。

閉会